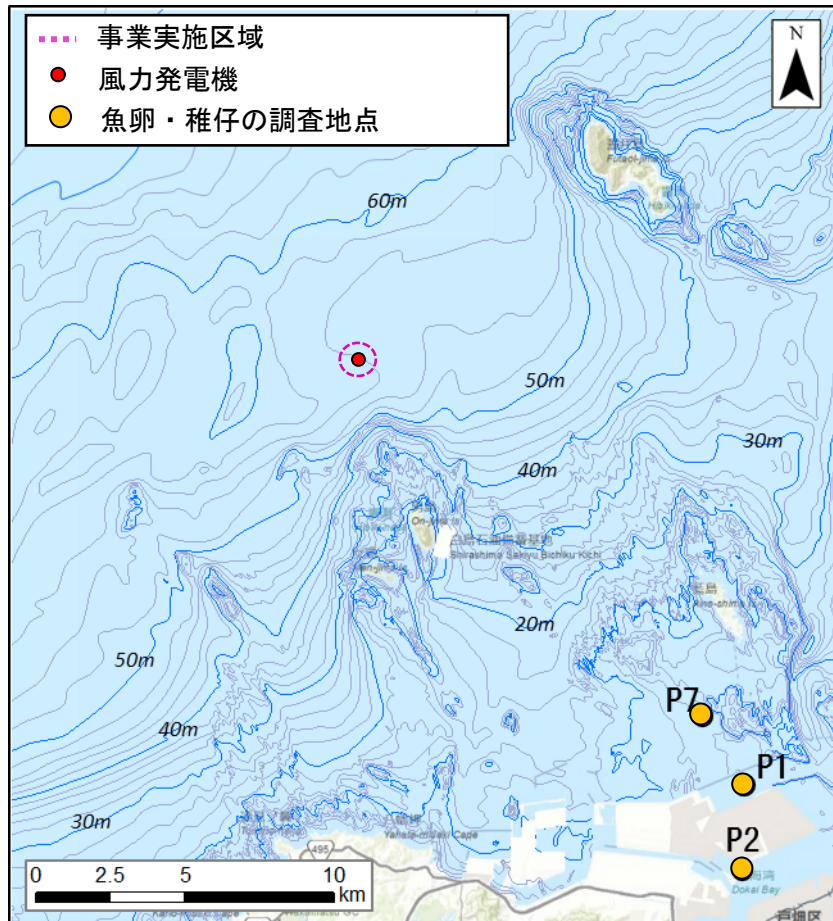


#### ④ 魚卵・稚仔の状況

事業実施区域周辺の魚卵・稚仔については、平成21年3月、8月、11月及び平成22年1月に北九州市港湾空港局により調査が行われている。調査地点は図3.1-39に、魚卵の調査結果を表3.1-52に、稚仔の調査結果を表3.1-53にそれぞれ示す。



出典：「平成21年度港湾計画環境アセスメント現況調査その2（水質、底質、海生生物）業務委託報告書」（北九州市港湾空港局・国際航業株式会社，平成22年3月）

図 3.1-39 魚卵・稚仔の調査結果

### a. 魚卵

魚卵の出現種数は2～10種であり、夏季及び秋季で多く、春季及び冬季で少なかった。平均個体数についても、出現種数と同様に、夏季及び秋季で多く、春季及び冬季で少なかった。

主な出現種としては、各季を通じて不明卵が多かった。

表 3.1-52 魚卵の調査結果

項目	季節			
	春季 平成21年3月	夏季 平成21年8月		
出現種数	2	10		
平均出現種数	2	5		
[最小～最大]	[1～2]	[3～8]		
平均個体数（個体/曳網）	58	653		
[最小～最大]	[6～141]	[60～1349]		
個体数からみた主要種	Callionymidae ネッポ科	98.3%	単脂球形卵③	61.7%
	単脂球形卵①	1.7%	単脂球形卵②	30.5%
	—		Cynoglossidae ウシソダ科	3.8%
項目	季節			
	秋季 平成21年11月	冬季 平成22年1月		
出現種数	8	3		
平均出現種数	5	1		
[最小～最大]	[3～7]	[1～1]		
平均個体数（個体/曳網）	961	1		
[最小～最大]	[25～1433]	[1～2]		
個体数からみた主要種	単脂球形卵⑦	96.3%	<i>Pleuronichthys</i> sp. メイガレイ属	50.0%
	Callionymidae ネッポ科	1.5%	Triglidae ホウボウ科	25.0%
	単脂球形卵⑧	1.5%	単脂球形卵⑨	25.0%

注1) 出現種数は全調査地点を通しての種類数。

注2) 平均出現種数は、調査地点1地点あたりの出現種数。[ ]内の数字は、全調査地点の最小と最大を示す。

#### 不明卵の諸元

不明卵の区分	卵形 (mm)	油球径 (mm)
単脂球形卵①	0.75-0.76	0.15-0.16
単脂球形卵②	0.53-0.62	0.11-0.13
単脂球形卵③	0.60-0.68	0.13-0.15
単脂球形卵④	0.72-0.78	0.15-0.18
単脂球形卵⑤	1.60-1.76	0.43-0.45
単脂球形卵⑥	0.65	0.11
単脂球形卵⑦	0.70-0.78	0.13-0.15
単脂球形卵⑧	0.83-0.90	0.15-0.18
単脂球形卵⑨	0.85	0.18

出典：「港湾計画環境アセスメント現況調査（水質・生物）業務委託報告書」（北九州市港湾空港局・株式会社バスコ，平成21年3月）、「平成21年度港湾計画環境アセスメント現況調査その2（水質、底質、海生生物業務委託報告書）」（北九州市港湾空港局・国際航業株式会社，平成22年3月）

## b. 稚仔

稚仔の出現種数は4～14種であり、夏季及び秋季で多く、春季及び冬季で少なかった。平均個体数については、春季及び冬季で少なく、夏季及び秋季で多かった。

主な出現種としては、春季、秋季及び冬季ではカサゴが、夏季ではハゼ科の魚類が多く出現した。

表 3.1-53 稚仔の調査結果

項目	春季 平成21年3月		夏季 平成21年8月	
	出現種数	4		14
平均出現種数	2		7	
[最小～最大]	[1～3]		[5～12]	
平均個体数（個体/曳網）	5		26	
[最小～最大]	[2～7]		[6～54]	
個体数からみた主要種	<i>Sebastiscus marmoratus</i> カサゴ	71.4%	Gobiidae ハゼ科	22.1%
	<i>Luciogobius</i> sp. ミスハゼ属	14.3%	Blenniidae イギソト科	16.9%
	Gobiidae ハゼ科	7.1%	<i>Stephanolepis cirrhifer</i> カワハギ	15.6%
	<i>Idiosepius paradoxus</i> ヒメイカ	7.1%	—	
項目	秋季 平成21年11月		冬季 平成22年1月	
	出現種数	10		5
平均出現種数	5		3	
[最小～最大]	[4～6]		[2～4]	
平均個体数（個体/曳網）	19		4	
[最小～最大]	[5～36]		[2～8]	
個体数からみた主要種	<i>Sebastiscus marmoratus</i> カサゴ	55.2%	<i>Sebastiscus marmoratus</i> カサゴ	53.8%
	Gobiidae ハゼ科	12.1%	<i>Sebastes pachycephalus</i> ムラサキ	15.4%
	<i>Engraulis japonicus</i> カクチイワシ	10.3%	Unidentified Larva 破損固体	15.4%

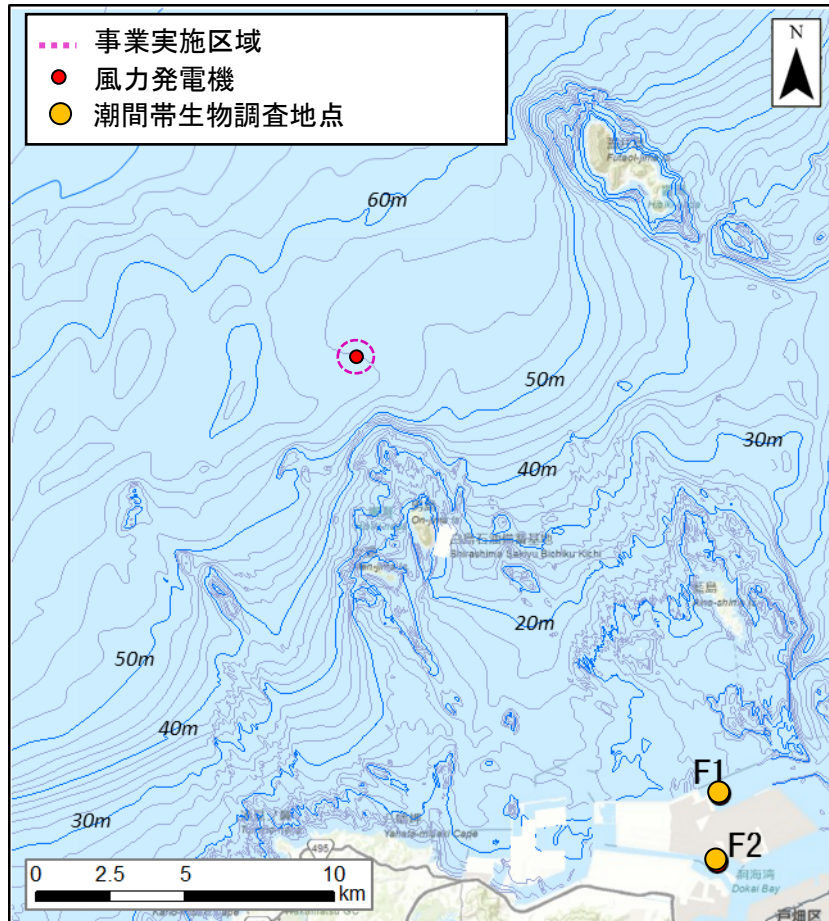
注1) 出現種数は全調査地点を通しての種類数。

注2) 平均出現種数は、調査地点1地点あたりの出現種数。[ ]内の数字は、全調査地点の最小と最大を示す。

出典：「港湾計画環境アセスメント現況調査（水質・生物）業務委託報告書」（北九州市港湾空港局・株式会社パスコ、平成21年3月）、「平成21年度港湾計画環境アセスメント現況調査その2（水質、底質、海生生物業務委託報告書）」（北九州市港湾空港局・国際航業株式会社、平成22年3月）

### ⑤ 潮間帯生物の状況

事業実施区域周辺の潮間帯生物については、平成 21 年 3 月、8 月、11 月及び平成 22 年 1 月に北九州市港湾空港局により調査が行われている。調査地点は図 3.1-40 に、付着動物の調査結果を表 3.1-54～表 3.1-56 に示す。



出典：「平成 21 年度港湾計画環境アセスメント現況調査その 2（水質、底質、海生物）業務委託報告書」（北九州市港湾空港局・国際航業株式会社，平成 22 年 3 月）

図 3.1-40 潮間帯生物の調査地点

## a. 付着動物

### <上層>

季節ごとの出現種数は1~5種であり、四季を通じて種数は少なかった。

平均個体数、平均湿重量のいずれについても、春季及び秋季で多く、夏季で少なかった。また、分類別では、各季において軟体動物が最も高い割合を占めた。

### <中層>

季節ごとの出現種数は51~94種であり、夏季で多く春季で少なかった。分類別では、環形動物、軟体動物及び節足動物がほぼ同じ割合で推移しており、季節間の差も少なかった。

平均個体数については、冬季で多く、春季で少なかった。分類別では、夏季及び秋季では節足動物が、春季及び冬季では環形動物が高い割合を占めた。

平均湿重量については、冬季で多く、春季で少なかった。分類群別では、春季及び夏季では軟体動物が、秋季及び冬季では節足動物が高い割合を占めた。

### <下層>

季節ごとの出現種数は72~86種であり、夏季と冬季でやや多く、春季と秋季でやや少なかった。分類別では、春季及び秋季では節足動物が、夏季及び冬季では環形動物が高い割合を占めた。

平均個体数については、秋季で多く冬季で少なかった。分類別では、四季を通じて環形動物が高い割合を占めた。

平均湿重量については、春季で多く、秋季で少なかった。分類別では、春季、夏季及び冬季では軟体動物が、秋季では節足動物が高い割合を占めた。

表 3.1-54 付着動物の調査結果（上層）

項目		春季 平成 21 年 3 月		夏季 平成 21 年 8 月	
出現種数	環形動物	1	20.0%	0	0.0%
	軟体動物	3	60.0%	1	100.0%
	節足動物	1	20.0%	0	0.0%
	その他	0	0.0%	0	0.0%
	合計	5	100.0%	1	100.0%
平均出現種数		3		1	
[最小～最大]		[2～3]		[0～1]	
平均個体数 (固体/m3)	環形動物	2	10.5%	0	0.0%
	軟体動物	11	57.9%	5	100.0%
	節足動物	6	31.6%	0	0.0%
	その他	0	0.0%	0	0.0%
	合計	19	100.0%	5	100.0%
[最小～最大]		[5～32]		[0～10]	
平均湿重量 (g/m3)	環形動物	0.01	1.4%	0.00	0.0%
	軟体動物	0.63	91.3%	0.10	100.0%
	節足動物	0.05	7.2%	0.00	0.0%
	その他	0.00	0.0%	0.00	0.0%
	合計	0.69	100.0%	0.10	100.0%
[最小～最大]		[0.49～0.87]		[0.00～0.20]	
個体数からみた主要種		アラレタマキビガイ 軟体動物	40.5%	アラレタマキビガイ 軟体動物	100.0%
		イリワジツボ 節足動物	32.4%		
		コビトウラズガイ 軟体動物	13.5%		
湿重量からみた主要種		ヨメガカサガイ 軟体動物	62.5%	アラレタマキビガイ 軟体動物	100.0%
		アラレタマキビガイ 軟体動物	22.8%		
		コビトウラズガイ 軟体動物	6.6%		
		イリワジツボ 節足動物	6.6%		
項目		秋季 平成 21 年 11 月		冬季 平成 22 年 1 月	
出現種数	環形動物	0	0.0%	0	0.0%
	軟体動物	2	100.0%	2	100.0%
	節足動物	0	0.0%	0	0.0%
	その他	0	0.0%	0	0.0%
	合計	2	100.0%	2	100.0%
平均出現種数		4		1	
[最小～最大]		[4～4]		[1～1]	
平均個体数 (固体/m3)	環形動物	0	0.0%	0	0.0%
	軟体動物	18	100.0%	12	100.0%
	節足動物	0	0.0%	0	0.0%
	その他	0	0.0%	0	0.0%
	合計	18	100.0%	12	100.0%
[最小～最大]		[2～34]		[1～22]	
平均湿重量 (g/m3)	環形動物	0.00	0.0%	0.00	0.0%
	軟体動物	1.03	100.0%	0.35	100.0%
	節足動物	0.00	0.0%	0.00	0.0%
	その他	0.00	0.0%	0.00	0.0%
	合計	1.03	100.0%	0.35	100.0%
[最小～最大]		[0.00～1.45]		[0.26～0.44]	
個体数からみた主要種		アラレタマキビガイ 軟体動物	94.4%	アラレタマキビガイ 軟体動物	95.7%
		カスリアオガイ 軟体動物	5.6%	カスリアオガイ 軟体動物	4.3%
		-		-	
湿重量からみた主要種		アラレタマキビガイ 軟体動物	70.4%	アラレタマキビガイ 軟体動物	62.9%
		カスリアオガイ 軟体動物	29.6%	カスリアオガイ 軟体動物	37.1%
		-		-	

注 1) 出現種数は全調査地点を通しての種類数。

注 2) 平均出現種数は、調査地点 1 地点あたりの出現種数。[ ]内の数字は、全調査地点の最小と最大を示す。

出典：「港湾計画環境アセスメント現況調査（水質・生物）業務委託報告書」（北九州市港湾空港局・株式会社パスコ、平成 21 年 3 月）、「平成 21 年度港湾計画環境アセスメント現況調査その 2（水質、底質、海生生物業務委託報告書）」（北九州市港湾空港局・国際航業株式会社、平成 22 年 3 月）

表 3.1-55 付着動物の調査結果（中層）

項目		春季		夏季	
		平成 21 年 3 月		平成 21 年 8 月	
出現種数	環形動物	15	29.4%	30	31.9%
	軟体動物	15	29.4%	22	23.4%
	節足動物	9	17.6%	27	28.7%
	その他	12	23.5%	15	16.0%
	合計	51	100.0%	94	100.0%
平均出現種数		28		53	
[最小～最大]		[17～38]		[42～64]	
平均個体数 (固体/m3)	環形動物	88	47.3%	162	21.5%
	軟体動物	21	11.3%	153	20.3%
	節足動物	59	31.7%	409	54.3%
	その他	18	9.7%	29	3.9%
	合計	186	100.0%	753	100.0%
[最小～最大]		[128～241]		[445～1,059]	
平均湿重量 (g/m3)	環形動物	1.16	4.0%	2.89	3.0%
	軟体動物	6.61	22.7%	39.17	40.3%
	節足動物	3.18	10.9%	13.24	13.6%
	その他	18.17	62.4%	41.96	43.1%
	合計	29.12	100.0%	97.26	100.0%
[最小～最大]		[4.04～54.20]		[9.96～184.53]	
個体数からみた主要種		サンカクフジツボ 節足動物	22.8%	サンカクフジツボ 節足動物	23.1%
		ヤッコカンザシゴカイ 環形動物	13.0%	ホトトギスガイ 節足動物	10.4%
		<i>Lepidonotus</i> sp. (ウロコムシ科) 環形動物	9.8%	<i>Monacorophium</i> sp. (ドロクダムシ科) 節足動物	9.0%
湿重量からみた主要種		尋常海綿綱 海綿動物	25.0%	ヒバリガイ 軟体動物	19.5%
		マボヤ科 原索動物	21.6%	シロボヤモドキ 脊椎動物	14.8%
		サンカクフジツボ 節足動物	10.4%	尋常海綿綱 海綿動物	11.9%
項目		秋季		冬季	
		平成 21 年 11 月		平成 22 年 1 月	
出現種数	環形動物	20	28.2%	19	27.5%
	軟体動物	21	29.6%	16	23.2%
	節足動物	20	28.2%	20	29.0%
	その他	10	14.1%	14	20.3%
	合計	71	100.0%	69	100.0%
平均出現種数		40		38	
[最小～最大]		[24～56]		[22～53]	
平均個体数 (固体/m3)	環形動物	497	43.20%	922	64.2%
	軟体動物	58	5.0%	59	4.1%
	節足動物	586	51.0%	428	29.8%
	その他	9	0.8%	28	1.9%
	合計	1,150	100.0%	1,437	100.0%
[最小～最大]		[147～2,151]		[203～2,668]	
平均湿重量 (g/m3)	環形動物	2.05	1.6%	6.67	4.4%
	軟体動物	15.28	12.2%	16.07	10.7%
	節足動物	85.62	68.6%	59.59	39.7%
	その他	21.90	17.5%	67.83	45.2%
	合計	124.85	100.0%	150.16	100.0%
[最小～最大]		[8.63～241.05]		[9.24～291.06]	
個体数からみた主要種		<i>Dodecacerio</i> sp. (ミズヒキゴカイ科) 環形動物	33.5%	<i>Dodecacerio</i> sp. (ミズヒキゴカイ科) 環形動物	52.6%
		サンカクフジツボ 節足動物	29.1%	サンカクフジツボ 節足動物	16.1%
		<i>Monacorophim</i> sp. (ドロクダムシ科) 節足動物	11.8%	<i>Monacorophium</i> sp. (ドロクダムシ科) 節足動物	5.5%
湿重量からみた主要種		サンカクフジツボ 節足動物	66.4%	サンカクフジツボ 節足動物	38.4%
		尋常海綿綱 海綿動物	14.8%	尋常海綿綱 海綿動物	37.1%
		ヒバリガイ 軟体動物	3.2%	コベルトフネガイ 軟体動物	4.0%

注 1) 出現種数は全調査地点を通しての種類数。

注 2) 平均出現種数は、調査地点 1 地点あたりの出現種数。[ ]内の数字は、全調査地点の最小と最大を示す。

出典：「港湾計画環境アセスメント現況調査（水質・生物）業務委託報告書」（北九州市港湾空港局・株式会社パスコ，平成 21 年 3 月）、「平成 21 年度港湾計画環境アセスメント現況調査その 2（水質、底質、海生生物業務委託報告書）」（北九州市港湾空港局・国際航業株式会社，平成 22 年 3 月）

表 3.1-56 付着動物の調査結果（下層）

項目		春季 平成 21 年 3 月		夏季 平成 21 年 8 月	
出現種数	環形動物	20	27.8%	32	37.2%
	軟体動物	17	23.6%	19	12.1%
	節足動物	22	30.6%	21	24.4%
	その他	13	18.1%	14	16.3%
	合計	72	100.0%	86	100.0%
平均出現種数		42		51	
[最小～最大]		[30～53]		[43～59]	
平均個体数 (固体/m <sup>3</sup> )	環形動物	483	59.0%	1,094	70.6%
	軟体動物	41	5.0%	286	18.5%
	節足動物	189	23.1%	147	9.5%
	その他	105	12.8%	23	1.5%
	合計	818	100.0%	1,550	100.0%
	[最小～最大]	[797～838]		[834～2,265]	
平均湿重量 (g/m <sup>3</sup> )	環形動物	11.78	5.4%	8.75	11.9%
	軟体動物	28.20	13.0%	12.53	17.0%
	節足動物	3.86	1.8%	4.10	5.6%
	その他	173.78	79.9%	48.45	65.6%
	合計	217.62	100.0%	73.83	100.0%
	[最小～最大]	[189.97～245.25]		[66.50～81.14]	
個体数からみた主要種	<i>Dodecacerio</i> sp. (ミズヒキゴカイ科) 環形動物	28.9%	<i>Cirratulus</i> sp. (ミズヒキゴカイ科) 環形動物	63.4%	
	エゾカサネカンザシゴカイ 環形動物	9.8%	ボサツガイ 軟体動物	4.3%	
	スナクモヒトデ科 棘皮動物	8.0%	ホトトギスガイ 節足動物	4.3%	
	尋常海綿綱 海綿動物	66.3%	マボヤ科 原索動物	24.4%	
湿重量からみた主要種	マボヤ科 原索動物	10.2%	尋常海綿綱 海綿動物	24.3%	
	ヒバリガイ 軟体動物	8.5%	ホソフサコケムシ 触手動物	9.4%	
季節		秋季 平成 21 年 11 月		冬季 平成 22 年 1 月	
項目					
出現種数	環形動物	19	25.0%	27	31.8%
	軟体動物	15	19.7%	19	22.4%
	節足動物	24	31.6%	21	24.7%
	その他	18	23.7%	18	21.2%
	合計	76	100.0%	85	100.0%
平均出現種数		44		51	
[最小～最大]		[36～51]		[29～72]	
平均個体数 (固体/m <sup>3</sup> )	環形動物	1,581	77.4%	291	48.3%
	軟体動物	85	4.2%	76	12.6%
	節足動物	335	16.4%	160	26.6%
	その他	42	2.1%	75	12.5%
	合計	2,043	100.0%	602	100.0%
	[最小～最大]	[459～3,627]		[587～614]	
平均湿重量 (g/m <sup>3</sup> )	環形動物	6.72	15.4%	11.53	6.6%
	軟体動物	4.20	9.6%	62.19	35.6%
	節足動物	22.93	52.5%	7.26	4.2%
	その他	9.85	22.5%	93.58	53.6%
	合計	43.70	100.0%	174.56	100.0%
	[最小～最大]	[13.66～73.71]		[71.75～277.34]	
個体数からみた主要種	<i>Dodecacerio</i> sp. (ミズヒキゴカイ科) 環形動物	69.5%	<i>Thelepus</i> sp. (フサゴカイ科) 環形動物	15.0%	
	サンカクフジツボ 節足動物	5.6%	<i>Timarele</i> sp. (ミズヒキゴカイ科) 環形動物	16.1%	
	フトウデンネジレカニダマシ 節足動物	3.7%	サンカクフジツボ 節足動物	13.4%	
湿重量からみた主要種	サンカクフジツボ 節足動物	46.7%	マボヤ科 原索動物	28.4%	
	尋常海綿綱 海綿動物	17.8%	尋常海綿綱 海綿動物	15.2%	
	<i>Thelepus</i> sp. (フサゴカイ科) 環形動物	6.9%	<i>Spondylus</i> sp. (ウミギクガイ科) 軟体動物	14.9%	

注 1) 出現種数は全調査地点を通しての種類数。

注 2) 平均出現種数は、調査地点 1 地点あたりの出現種数。[ ]内の数字は、全調査地点の最小と最大を示す。

出典：「港湾計画環境アセスメント現況調査（水質・生物）業務委託報告書」（北九州市港湾空港局・株式会社パスコ、平成 21 年 3 月）、「平成 21 年度港湾計画環境アセスメント現況調査その 2（水質、底質、海生生物）業務委託報告書」（北九州市港湾空港局・国際航業株式会社、平成 22 年 3 月）

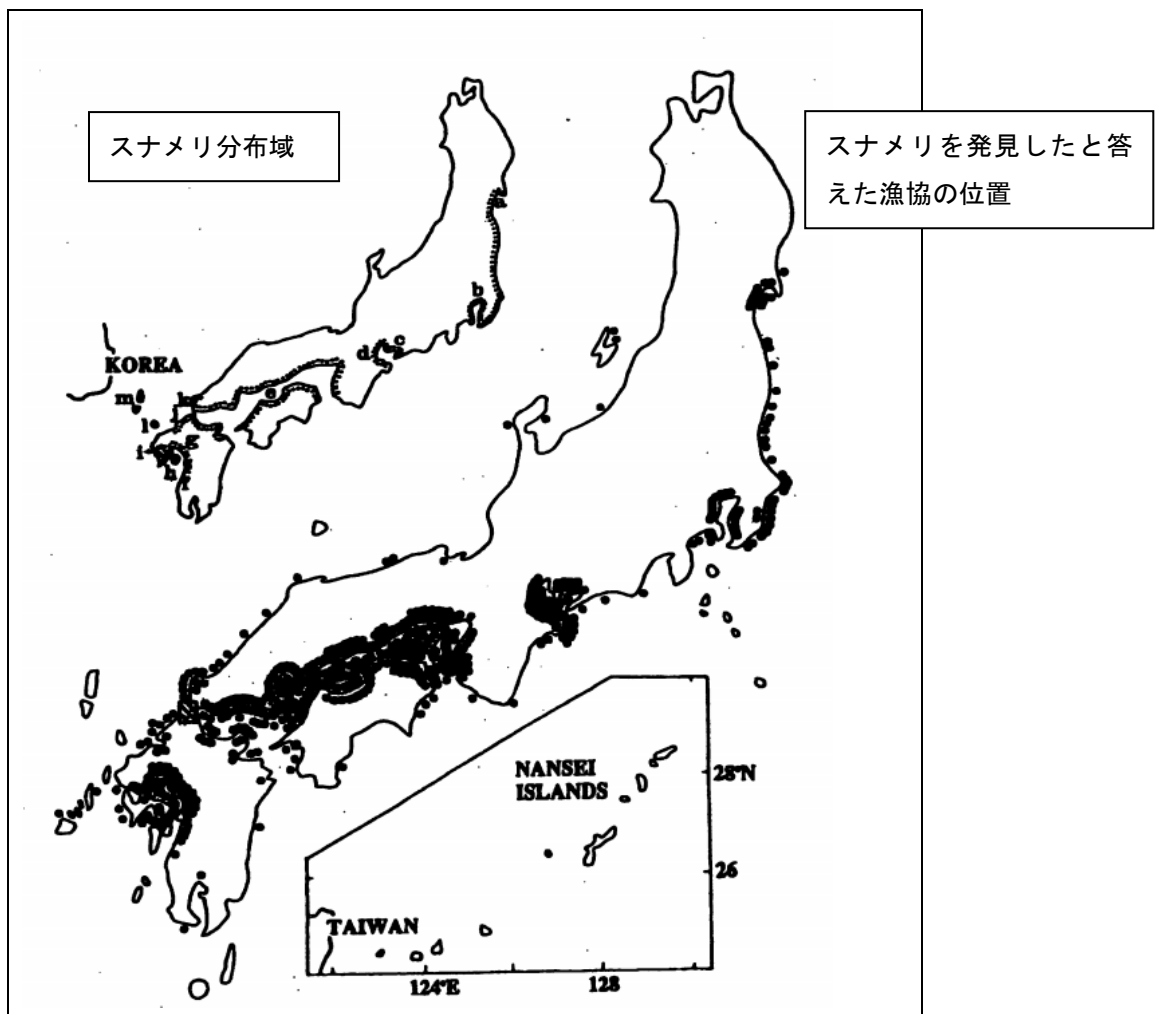


## ⑥ 海棲哺乳類の状況

響灘周辺の海棲哺乳類の代表的な種としてスナメリが挙げられる。日本において本種は、主に、仙台湾～東京湾、伊勢湾・三河湾、瀬戸内海～響灘、大村湾、有明海・橘湾の5海域に分布し、その他の海域での出現は稀であることが知られている。また、本種は、「水産資源保護法」(昭和26年法律第313号)による捕獲禁止対象種となっており、捕獲、所持、販売が禁止されている。

瀬戸内海においては、1976年から1978年にかけて、主としてフェリー上からの目視によるスナメリ調査が実施され、その結果、4,900頭の推定値が得られている。

「海域自然環境保全基礎調査 海棲動物調査(スナメリ生息調査)報告書」に、「A questionnaire survey on the distribution of the finless porpoise, *Neophocaena phocaenoides*, in Japanese waters.」の調査結果を引用して、響灘の北九州沿岸部におけるスナメリの発見例が記載されている(図3.1-41参照)。



注：1. スナメリ分布域沿岸は点線で示してある(左上図)

2. スナメリを発見したと答えた漁協の位置は●で示してある(右図)

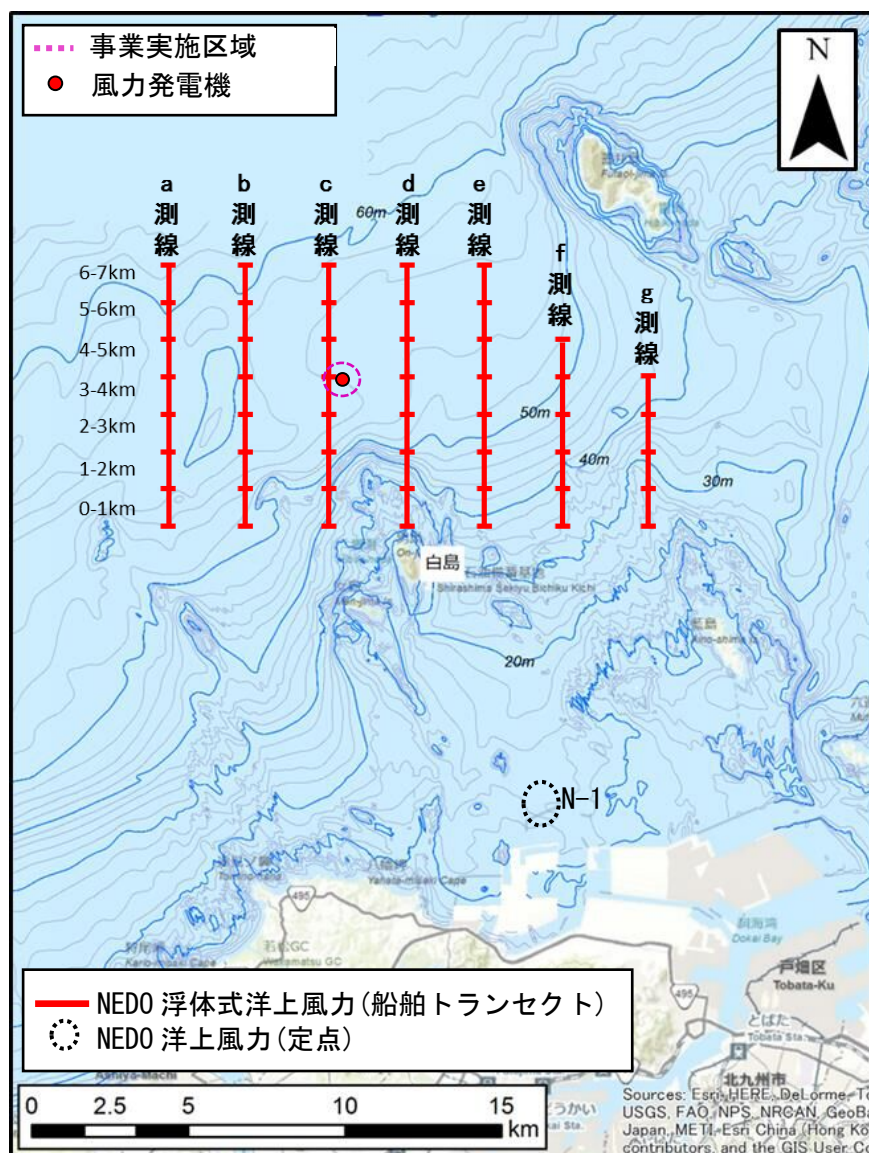
出典：「海域自然環境保全基礎調査 海棲動物調査(スナメリ生息調査)報告書」(環境省、平成14年)

図3.1-41 北海道を除く全国の漁業協同組合へのスナメリ発見有無のアンケート調査及びスナメリ分布調査結果

事業実施区域周辺については NEDO 次世代浮体式洋上風力発電システム実証研究（エコ・パワー㈱）及び NEDO 洋上風力発電システム実証研究（電源開発㈱）において調査が行われている。調査地点を図 3.1-42 に示す。

NEDO 次世代浮体式洋上風力発電システム実証研究（エコ・パワー㈱）の調査結果を表 3.1-57 に示す。船舶トランセクト調査及び音響学的調査を行っているが、各季節とも海棲哺乳類は確認されなかった。当海域は、白島より北側海域の水深 50m 以深であるため、浅海域に生息するスナメリは見られなかったものと考えられる。

NEDO 洋上風力発電システム実証研究（電源開発㈱）の結果を表 3.1-58 に示す。スナメリの出現は、四季において春季に最も多く出現し、出現状況に明確な日周変動が認められ、夜間に多く出現し、日中は少ない傾向にあった。



注) 凡例は、「NEDO次世代浮体式洋上風力発電システム実証研究-環境影響評価書-」（エコ・パワー株式会社、平成28年）、「NEDO洋上風力発電システム実証研究-環境影響評価書-」（電源開発株式会社、平成24年）より引用した。

図 3.1-42 海生動物（海棲哺乳類）に関する調査位置

表 3.1-57 海棲哺乳類の調査結果

調査概要	調査結果
船舶トランセクト調査（目視調査） 調査時期：平成27年7月2日～3日（繁殖期） 調査時期：平成27年8月3日～4日（夏季）	繁殖期、夏季とも海棲哺乳類は確認されなかった。
音響学的調査（水中録音機を曳航） 調査時期：平成27年7月2日～3日（繁殖期）	鳴音は確認されなかった。

出典：「NEDO 次世代浮体式洋上風力発電システム実証研究-環境影響評価書-」（エコ・パワー株式会社、平成 28 年）

表 3.1-58 海棲哺乳類（スナメリ）の時間別出現回数

平成23年春季		出現回数
時間帯		
0:00 ~ 1:00		11
1:00 ~ 2:00		23
2:00 ~ 3:00		9
3:00 ~ 4:00		12
4:00 ~ 5:00		14
5:00 ~ 6:00		10
6:00 ~ 7:00		11
7:00 ~ 8:00		8
8:00 ~ 9:00		3
9:00 ~ 10:00		6
10:00 ~ 11:00		8
11:00 ~ 12:00		5
12:00 ~ 13:00		12
13:00 ~ 14:00		4
14:00 ~ 15:00		6
15:00 ~ 16:00		6
16:00 ~ 17:00		6
17:00 ~ 18:00		6
18:00 ~ 19:00		8
19:00 ~ 20:00		5
20:00 ~ 21:00		26
21:00 ~ 22:00		18
22:00 ~ 23:00		15
23:00 ~ 0:00		11
計		243

注) 調査期間：平成23年5月19日～6月17日  
(台風による中断除く)。有効計測時間605時間

平成23年夏季		出現回数
時間帯		
0:00 ~ 1:00		0
1:00 ~ 2:00		1
2:00 ~ 3:00		0
3:00 ~ 4:00		0
4:00 ~ 5:00		1
5:00 ~ 6:00		0
6:00 ~ 7:00		0
7:00 ~ 8:00		0
8:00 ~ 9:00		0
9:00 ~ 10:00		0
10:00 ~ 11:00		0
11:00 ~ 12:00		0
12:00 ~ 13:00		0
13:00 ~ 14:00		0
14:00 ~ 15:00		0
15:00 ~ 16:00		0
16:00 ~ 17:00		0
17:00 ~ 18:00		0
18:00 ~ 19:00		2
19:00 ~ 20:00		1
20:00 ~ 21:00		0
21:00 ~ 22:00		0
22:00 ~ 23:00		0
23:00 ~ 0:00		1
計		6

注) 調査期間：平成23年8月15日～8月31日  
(データなしの期間除く)。有効計測時間384時間

平成23年秋季		出現回数
時間帯		
0:00 ~ 1:00		0
1:00 ~ 2:00		6
2:00 ~ 3:00		3
3:00 ~ 4:00		2
4:00 ~ 5:00		0
5:00 ~ 6:00		1
6:00 ~ 7:00		4
7:00 ~ 8:00		0
8:00 ~ 9:00		3
9:00 ~ 10:00		0
10:00 ~ 11:00		1
11:00 ~ 12:00		2
12:00 ~ 13:00		2
13:00 ~ 14:00		0
14:00 ~ 15:00		2
15:00 ~ 16:00		0
16:00 ~ 17:00		3
17:00 ~ 18:00		3
18:00 ~ 19:00		3
19:00 ~ 20:00		1
20:00 ~ 21:00		0
21:00 ~ 22:00		0
22:00 ~ 23:00		4
23:00 ~ 0:00		1
計		41

注) 調査期間：平成23年10月28日～11月29日  
有効計測時間750時間

平成24年冬季		出現回数
時間帯		
0:00 ~ 1:00		2
1:00 ~ 2:00		1
2:00 ~ 3:00		4
3:00 ~ 4:00		2
4:00 ~ 5:00		2
5:00 ~ 6:00		2
6:00 ~ 7:00		3
7:00 ~ 8:00		1
8:00 ~ 9:00		6
9:00 ~ 10:00		2
10:00 ~ 11:00		2
11:00 ~ 12:00		2
12:00 ~ 13:00		1
13:00 ~ 14:00		2
14:00 ~ 15:00		2
15:00 ~ 16:00		2
16:00 ~ 17:00		1
17:00 ~ 18:00		3
18:00 ~ 19:00		2
19:00 ~ 20:00		2
20:00 ~ 21:00		2
21:00 ~ 22:00		2
22:00 ~ 23:00		0
23:00 ~ 0:00		2
計		50

注) 調査期間：平成24年2月10日～3月7日  
有効計測時間591時間

出典：「NEDO 洋上風力発電システム実証研究-環境影響評価書-」（電源開発株式会社、平成 24 年）

また、海棲哺乳類の座礁・漂着の状況（ストランディング）がデータベースとして整理されており、北九州市沖周辺に関する2010年以降の情報を表3.1-59～表3.1-61に示す。主にスナメリが瀬戸内海で確認されている。

なお、北九州市においては、藍島南西の沿岸でスナメリが生息していることが知られており、地元の藍島小学校では年2回程度のスナメリウォッチングを行っている。

表 3.1-59 海棲哺乳類のストランディングデータ (1/3)

和名	発見日	郡市町村	群頭数	性別	海域	状況	生/死	体長(m)	生物情報
スナメリ	2021.07.13	京都郡苅田町空港南町東方5km沖合	1	雌	瀬戸内海	混獲	死亡	0.98	—
スナメリ	2021.07.12	京都郡苅田町長浜町神ノ島沖約6km	1	雌	瀬戸内海	混獲	死亡	0.804	—
スナメリ	2021.06.07	京都郡苅田町北九州空港連絡橋下	1	雌	瀬戸内海	漂流	死亡	1.5	—
スナメリ	2020.11.20	北九州市門司区柄杓田 柄杓田漁港	1	—	瀬戸内海	漂着	死亡	1.6	ミイラ化。腰椎露出
ナガスクジラ	2020.10.14	北九州市若松区響町若松洞海湾付近	1	雌	日本海	漂流	死亡	12.39	頭部に外傷あり
スナメリ	2020.05.20	北九州市門司区大字喜多久 地先	1	雄	瀬戸内海	漂着	死亡	0.7	腐敗軽度
スナメリ	2020.04.06	北九州市門司区西海岸1-3地先	1	雌	瀬戸内海 日本海	漂流	死亡	0.75	腐敗強度
スナメリ	2020.02.18	北九州市門司区白野江地先	1	雌	瀬戸内海	漂着	死亡	1.1	腐敗強度
スナメリ	2020.02.18	北九州市門司区白野江地先	1	雌	瀬戸内海	漂着	死亡	1.4	腐敗強度 妊娠していた
スナメリ	2020.01.06	北九州市門司区白野江地先	1	—	瀬戸内海	漂着	死亡	—	ミイラ化 頭骨のみ
スナメリ	2020.01.06	北九州市門司区白野江地先	1	—	瀬戸内海	漂着	死亡	0.95	ミイラ化 尾びれは切断されたよう
スナメリ	2020.01.06	北九州市門司区白野江地先	1	—	瀬戸内海	漂着	死亡	1.2	ミイラ化 骨格のみ
スナメリ	2020.01.06	北九州市門司区白野江地先	1	—	瀬戸内海	漂着	死亡	1.6	ミイラ化 骨格のみ
ハンドウイルカ属	2019.02.23	北九州市若松区響町(洞海湾)	15	—	日本海	遊泳	生存	—	—
種不明鯨	2018.10.23	京都郡苅田町苅田港沖	1	—	瀬戸内海	目視情報	生存	—	—
スナメリ	2018.10.05	北九州市門司区大字白野江 青浜海岸	1	—	瀬戸内海	漂着	死亡	—	腐敗強度1
スナメリ	2017.05.06	北九州市門司区新門司北	1	雌	瀬戸内海	漂流	死亡	1.47	体重44.5kg
スジイルカ	2017.03.26	北九州市小倉南区吉田	1	—	瀬戸内海	漂着	生存	—	—
スナメリ	2016.12.22	北九州市門司区港町	1	—	瀬戸内海 日本海	漂着	死亡	1.0	腐敗強度
スナメリ	2016.10.18	京都郡苅田町苅田漁港東方沖約8km	1	雄	瀬戸内海	漂流	死亡	1.1	新鮮
スナメリ	2016.09.23	北九州市門司区柄杓田漁港	3	—	瀬戸内海	港内迷入	生存	—	親子含む
スナメリ	2016.09.22	北九州市小倉南区曾根新田地先	1	—	瀬戸内海	漂着	死亡	1.2	腐敗強度
スナメリ	2016.08.29	北九州市小倉南区曾根新田	1	—	瀬戸内海	漂着	死亡	—	ミイラ白骨化

出典：「海棲哺乳類ストランディングデータベース」（国立科学博物館 web サイト  
<https://www.kahaku.go.jp/research/db/zoology/marmam/drift/index.php> 令和4年6月閲覧）

表 3.1-60 海棲哺乳類のストランディングデータ (2/3)

和名	発見日	郡市町村	群頭数	性別	海域	状況	生/死	体長(m)	生物情報
スナメリ	2016.07.14	北九州市小倉北区 紫川勝山橋付近	2	-	瀬戸内海 日本海	河川 迷入	生存	-	-
スナメリ	2016.06.28	京都郡苅田町北九州 空港東約2km沖	1	雌	瀬戸内海	混獲	死亡	0.89	新鮮 底刺網で混獲
スナメリ	2015.11.02	北九州市門司区大 字喜多久地先	1	-	瀬戸内海	混獲	生存	約1.0	定置網に混獲 翌日自力脱出
マッコウクジラ	2015.09.17	福岡県 京都郡苅 田町北九州空港東 沖約4km	1	雄	瀬戸内海	漂流	死亡	16.3	体重 33000kg
スナメリ	2015.07.21	北九州市門司区西 海岸1-3地先	1	雌	瀬戸内海 日本海	漂着	死亡	1.5	腐敗強度
スナメリ	2015.04.26	糸島市志摩芥屋黒 磯海岸	1	雌	日本海	漂着	死亡	0.93	高度死後変化
オウギハクジラ	2015.03.25	福津市勝浦2231 地先	1	雌	日本海	漂着	死後	5.07	比較的新鮮
スナメリ	2014.11.10	北九州市門司区新 門司東沖約2km	1	-	瀬戸内海	漂流	死亡	-	腐敗強度
スナメリ	2014.11.04	京都郡苅田町新浜 町神ノ島南東沖約 2km	1	雌	瀬戸内海	混獲	死亡	0.93	新鮮 体重11.8kg 刺網で混獲
スナメリ	2014.11.03	京都郡苅田町新浜 町神ノ島東沖約 800m	1	雌	瀬戸内海	混獲	死亡	1.0	新鮮 体重12.6 樹網で混獲
スナメリ	2014.10.30	京都郡苅田町新浜 町神ノ島東沖約 800m	1	雌	瀬戸内海	混獲	死亡	1.0	新鮮 樹網で混獲
ユメゴンドウ	2014.09.27	福岡市東区奈多漁 港	1	-	日本海	港内 迷入	生存 飼育	2.32	衰弱 体重110kg
スナメリ	2014.07.02	北九州市門司区新 門司3地先	1	雌	瀬戸内海	漂着	死亡	1.5	腐敗強度
スナメリ	2014.06.13	北九州市小倉南区 大字曾根新田朽網 川河口	1	雌	瀬戸内海	漂着	死亡	1.5	腐敗強度
スナメリ	2014.05.29	柳川市七ツ家筑後 川上流650m	1	雄	東シナ海	漂着	死亡	1.0	高度死後変化
スナメリ	2014.05.24	京都郡苅田町北九州 空港南東角沖約 5m	1	雄	瀬戸内海	漂流	死亡	0.85	新鮮 体重12kg
スナメリ	2014.05.14	北九州市門司区大 字伊川地先	1	雄	瀬戸内海	漂着	死亡	1.75	腐敗強度
スナメリ	2014.05.11	北九州市門司区大 字喜多久地先	1	雄	瀬戸内海	漂着	死亡	0.9	新鮮
スナメリ	2014.05.01	北九州市門司区大 字白野江白野江製 塩工場前250m沖	1	雌	瀬戸内海	混獲	死亡	1.4	新鮮 体重44.8kg 乳汁分泌
スナメリ	2013.12.07	北九州市門司区大 字白野江地先	1	-	瀬戸内海	漂着	死亡	1.5	腐敗強度
スナメリ	2013.11.04	京都郡苅田町新浜 町神ノ島西方約 800m	1	雄	瀬戸内海	混獲	死亡	0.9	新鮮
ゴマフアザラシ	2013.04.17	北九州市若松区浜 町若松漁港	1	雌	瀬戸内海	港内 迷入	生存 飼育	0.65	体重8.5kg
スナメリ	2013.01.13	北九州市門司区大 積地先	1	-	瀬戸内海	漂着	死亡	1.55	腐敗強度
スナメリ	2012.12.27	北九州市小倉北区 藍島北200m沖	1	雄	日本海	混獲	死亡	1.15	新鮮 つぼ網で混獲
スナメリ	2012.12.14	北九州市門司区片 上海岸3	1	-	瀬戸内海 日本海	漂着	死亡	-	腐敗強度
スナメリ	2012.12.11	北九州市門司区東 港町岸壁	1	-	瀬戸内海 日本海	漂着	死亡	1.7	腐敗強度

出典：「海棲哺乳類ストランディングデータベース」（国立科学博物館 web サイト  
<https://www.kahaku.go.jp/research/db/zoology/marmam/drift/index.php> 令和4年6月閲覧）

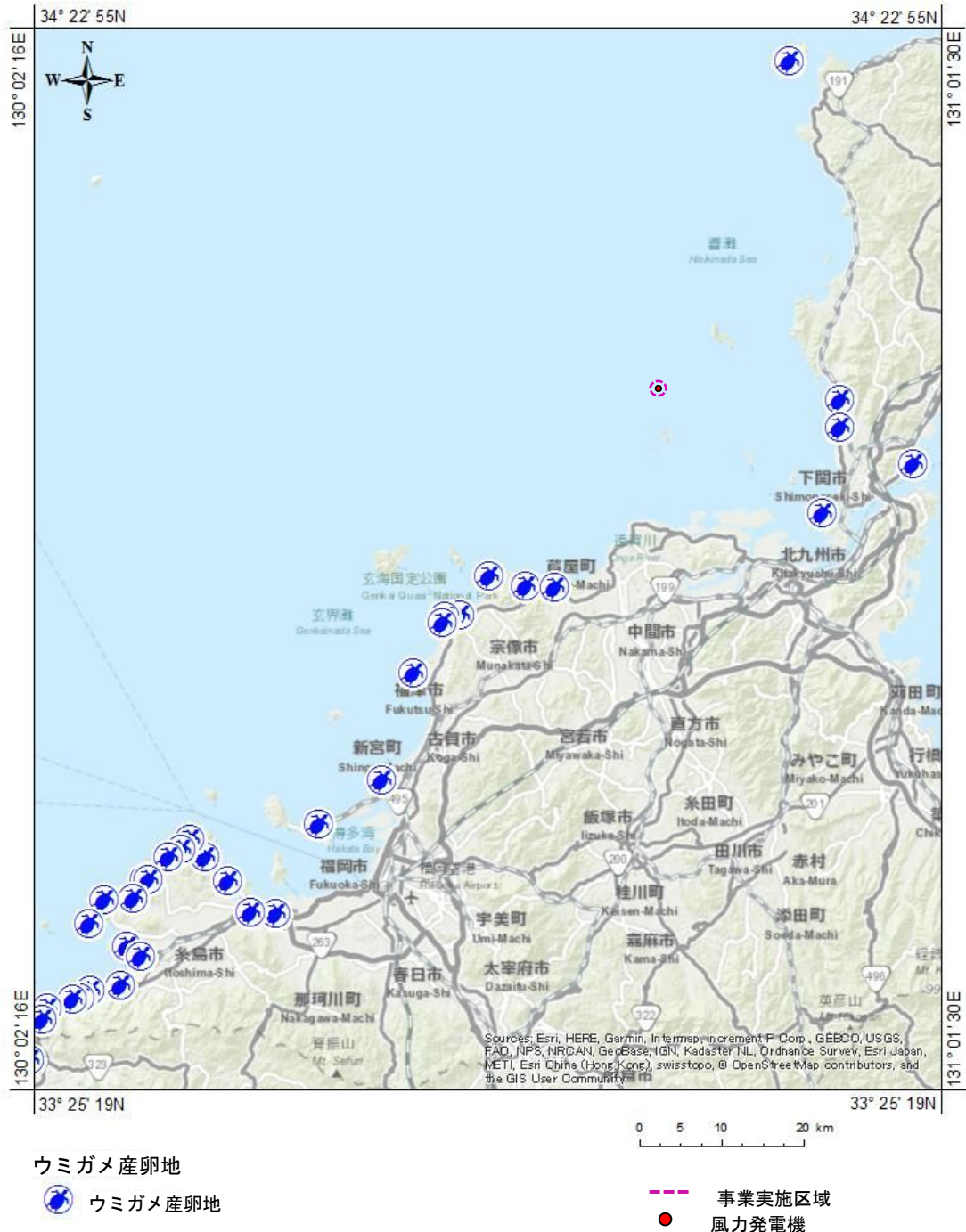
表 3.1-61 海棲哺乳類のストランディングデータ (3/3)

和名	発見日	郡市町村	群頭数	性別	海域	状況	生/死	体長(m)	生物情報
スナメリ	2012.11.09	京都郡苅田町、東方沖約500m	1	雄	瀬戸内海	混獲	死亡	—	カニ刺網で混獲 体重12.8kg
スナメリ	2012.10.16	北九州市門司区大字喜多久地先	1	—	瀬戸内海	漂着	死亡	1.4	腐敗強度
スナメリ	2012.10.13	福岡市東区志賀島	1	雄	日本海	混獲	生存飼育	1.2	定置網で混獲
スナメリ	2012.09.08	北九州市小倉南区曾根間島東側	1	雄	瀬戸内海	混獲	死亡	1.2	定置網で混獲 体重24kg
ミンククジラ	2012.07.08	糸島市志摩町姫島東沖	1	雄	日本海	混獲	生存死亡	5.0	小型定置網で混獲
スナメリ	2012.05.03	北九州市門司区西海岸2地先	1	—	瀬戸内海 日本海	漂流	死亡	—	新鮮
スナメリ	2012.04.22	古賀市天神6-9-10	1	—	日本海	漂着	死亡	—	—
スナメリ	2011.10.19	北九州市門司区大字白野江部崎北方約2km	1	雄	瀬戸内海 日本海	混獲	死亡	1.0	新鮮 カニ刺網で混獲
スナメリ	2011.10.17	京都郡苅田町新浜町東方沖約4km	1	雄	瀬戸内海	混獲	死亡	1.3	新鮮 カニ籠枝網で混獲 体重32.2kg
コマッコウ	2011.10.09	福岡市西区長垂海水浴場	1	—	日本海	湾内迷入	生存	約3.0	—
スナメリ	2011.09.29	北九州市門司区柄杓田柄杓田港	1	雌	瀬戸内海	漂着	死亡	約1.0	腐敗強度
スナメリ	2011.06.06	北九州市白野江青浜海岸	1	雄	瀬戸内海	漂着	死亡	1.75	腐敗強度
スナメリ	2011.05.27	北九州市門司区大字喜多久地先	1	雄	瀬戸内海	漂着	死亡	0.78	新鮮
スナメリ	2011.05.12	行橋市蓑島752-2地先	1	—	瀬戸内海	漂着	死亡	約0.8	腐敗強度 頭骨欠損
ミンククジラ	2011.01.23	宗像市地島東沖	1	—	日本海	混獲	死亡	4.4	小型定置網で混獲

出典：「海棲哺乳類ストランディングデータベース」(国立科学博物館 web サイト  
<https://www.kahaku.go.jp/research/db/zoology/marmam/drift/index.php> 令和4年6月閲覧)

### ⑦ 海棲は虫類の状況

九州北部の沿岸域にはウミガメの産卵地が多数見られる（図 3.1-43 参照）。アカウミガメが福岡県のレッドデータブックに絶滅危惧 I B 類で登録されている。



出典：「ウミガメの産卵地」（環境省、環境アセスメントデータベース、令和 4 年 6 月閲覧）

図 3.1-43 ウミガメの産卵地



## ⑧ 生態系の状況

事業実施区域における生態系については、底生生物、動植物プランクトン、魚介類、海棲哺乳類及び鳥類における食物連鎖から成り立っていると考えられるが、ここでは、環境省における福岡県北九州市情報整備モデル地区における報告書を引用した。

北九州市の響灘沿岸では、若松海岸や脇田海岸などの自然海岸に岩礁地帯と砂浜が交互に分布するほか、沖合の白島周辺等の岩礁・岩盤域には、アラメ場やガラモ場などの藻場が形成されている。これらの藻場には貝類や甲殻類が生息するとともに、魚類の産卵場や稚魚の生育場として利用されていると考えられる。

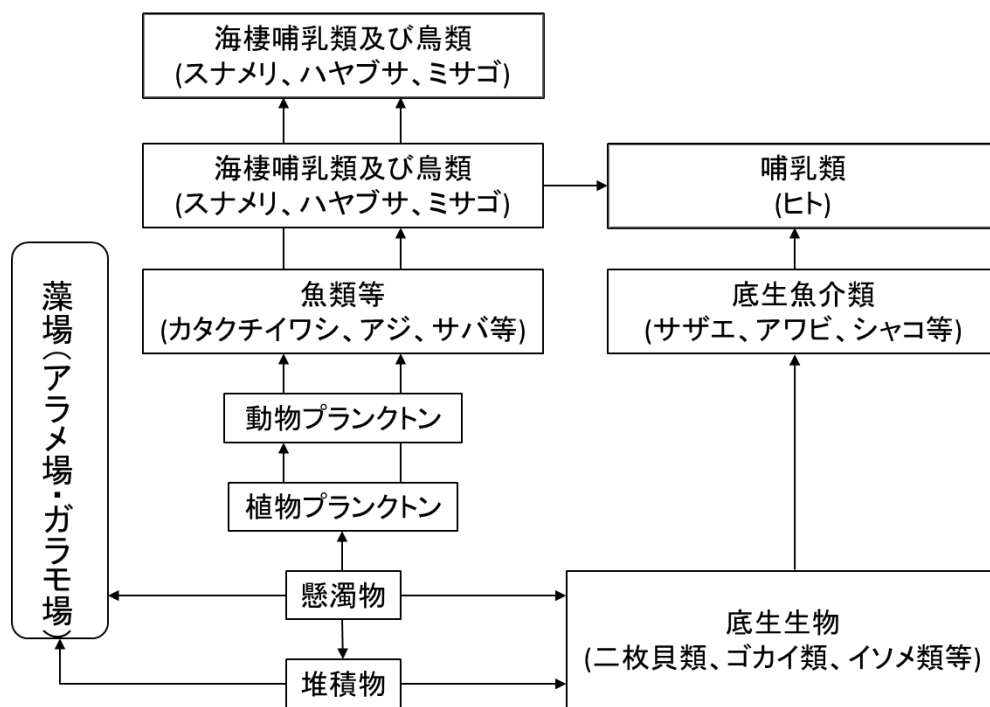
人工海岸にはアラレタマキビガイ、サンカクフジツボ、ヒジキ等の潮間帯付着動物が生息するとともに、魚類の産卵場や稚魚の生育場として利用されていると考えられる。

海域には多数の動植物プランクトンが生息・生育し、カタクチイワシ等の小型の魚類や甲殻類の餌となっており、これらを大型の魚類やミサゴ等の鳥類及びスナメリが捕食している。

事業実施区域及び周辺海域における生態系は、地域特性に関する概況調査による主要な出現種より、図 3.1-44 に示した食物連鎖としての生態系の概念が考えられる。生態系の上位性、典型性を示す種としては以下に示すものが考えられる。

- |     |         |  |
|-----|---------|--|
| 上位性 | スナメリ    | ・沿岸の浅海に生息し、小魚や甲殻類等を餌としている。   |
|     | ハヤブサ    | ・鳥類食性の猛禽類で生態系上位に位置する。<br>・留鳥として生息し、離島や沿岸部の採石地跡地等の崖を利用し繁殖する。            |
|     | ミサゴ     | ・魚食性の猛禽類で生態系上位に位置する。<br>・留鳥として年間を通じて生息し、海域(水域)や岩礁部を含む沿岸域を採餌、繁殖の場としている。 |
|     | サワラ     | ・春から秋にかけては沿岸の表層を群れで遊泳するが、冬場は深場に移る。<br>・主にカタクチイワシ、イカナゴ等の小魚を捕食する。        |
| 典型性 | カタクチイワシ | ・当該海域を含む広範囲に分布し、上位捕食者の重要な餌料となっている。                                     |





出典：「平成 25 年度 風力発電等環境アセスメント基礎情報整備モデル事業委託業務報告書－福岡県北九州市情報整備モデル地区－」（環境省）

図 3.1-44 生態系における概念図

### 3.1.6 景観及び人と自然との触れ合いの活動の状況

#### (1) 景観

##### a. 主要な眺望点

事業実施区域周辺における主要な眺望点の概要を表 3.1-62 に、位置を図 3.1-45 に示す。

表 3.1-62 主要な眺望点の概要

名称	区分	概要
脇田海釣り桟橋	海岸	遊歩道の両側に釣り台を備え付けた施設。沖合 約 500m の響灘で、「船釣り感覚のダイナミックな釣り」を楽しむことができる。釣竿の貸出、釣りエサの販売も行なっているので、手ぶらですぐに釣りを体験できる。また、釣り桟橋の遊歩道部分は入場無料なので、「美しい海岸を望みながら海上散歩」もできる。
岩屋海水浴場	海岸	白い砂浜が美しい海水浴場として、夏場の海水浴利用だけでなく、サーフィンやボードセーリング等も盛んで、年間を通して利用されている。
遠見ヶ鼻	海岸	脇田海岸と岩屋海岸に挟まれた岬として位置する「遠見ヶ鼻」は、海上を見渡すことができる妙見崎灯台があり、夕陽の名所で知られている。
藍島	海岸	夏季を中心に海水浴やキャンプを楽しむ多くのレジャー客が訪れているほか、年間を通じて、釣り客も多く訪れている。

出典：北九州市自然百選：[http://www.city.kitakyushu.lg.jp/kankyou/file\\_0406.html](http://www.city.kitakyushu.lg.jp/kankyou/file_0406.html)，  
北九州港海ナビ HP：<http://www.kitaqport.or.jp/jap/umibe/enjoy/leisure.html>，  
海の路 HP：<https://www.uminet.jp/play/detail.php?id=219> (令和 4 年 6 月閲覧)

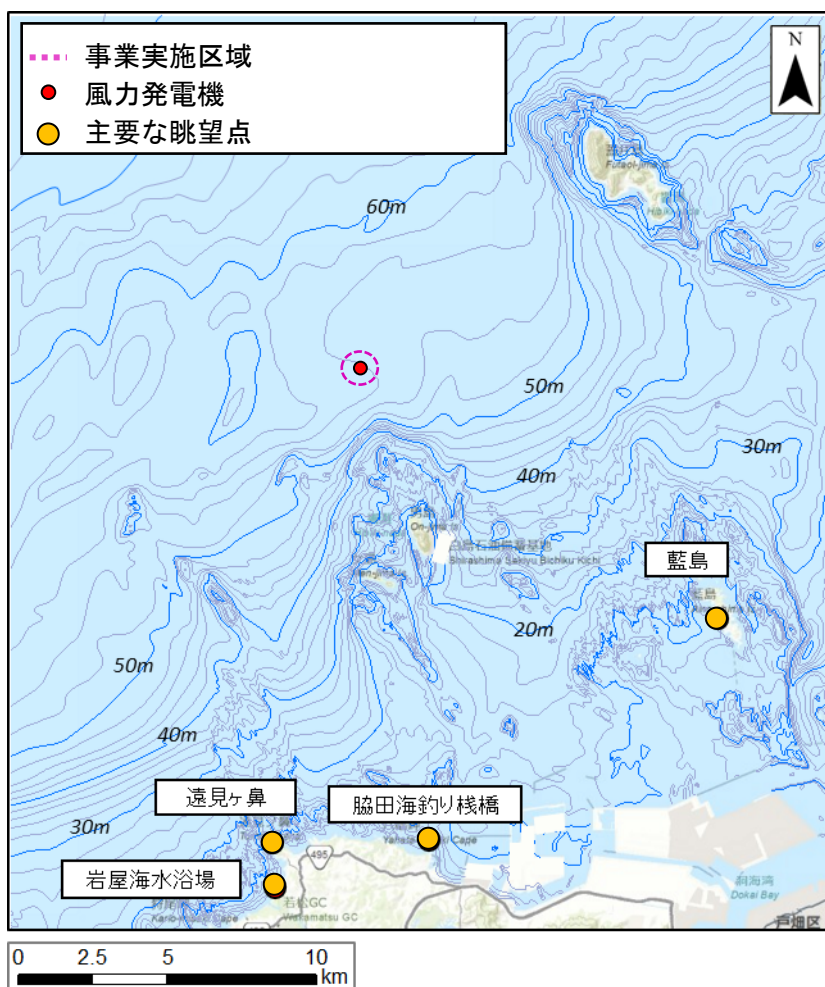


図 3.1-45 主要な眺望点の位置

主要な眺望点及び可視範囲（風車を見ることが出来る範囲）を図 3.1-46 に示す。風車周辺には障害物がないため、洋上の広い範囲が可視となっている。主要眺望点からは岩屋海水浴場を除いて、風車が視認される可能性がある。

風車に対する見えの大きさ（垂直視野角）2度の範囲（風車から4.8km）を図 3.1-46 に示す。2度以下については視覚的な変化の程度は小さいとされており、その範囲は洋上であり、人が住んでいないため景観への影響は小さいと考えられる。参考に垂直視野角と送電鉄塔の見え方の関係を表 3.1-64 に示す。

各主要眺望点からの見えの大きさを表 3.1-63 に示す。風車の見えの大きさは、いずれも2度以下となっている。

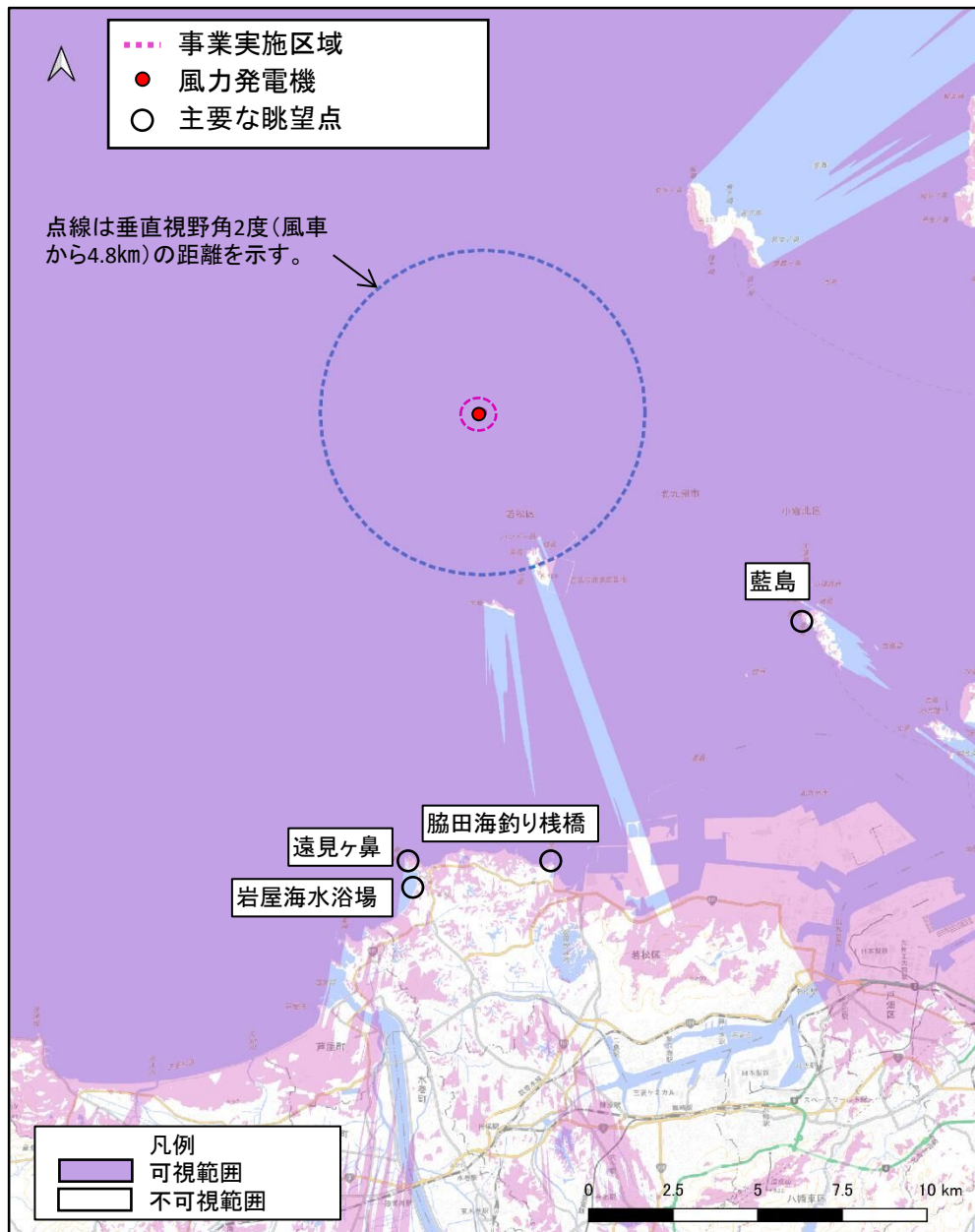


図 3.1-46 主要な眺望点及び可視範囲

表 3.1-63 主要な眺望点からの風車の見えの大きさ（垂直視野角）

主要な眺望点	主要な眺望点から風車までの距離 (km)	風車の見えの大きさ（垂直視野角）(度)
脇田海釣り桟橋	13.4	0.7
遠見ヶ鼻	13.3	0.7
藍島	11.1	0.9

<見えの大きさ（垂直視野角）について>

人間の視力で対象をはっきりと識別できる見えの大きさは、研究例によって解釈が異なるが、一般的には1～2度が用いられている。

見えの大きさに応じた送電鉄塔の見え方を以下に示す。鉄塔の垂直視野角が2度以下であれば視覚的な変化の程度は小さいといえる。

表 3.1-64 垂直視野角と送電鉄塔の見え方

垂直視角	鉄塔の場合の見え方
0.5度	輪郭がやっとわかる。季節と時間（夏の午後）の条件は悪く、ガスのせいもある。
1度	十分見えるけれど、景観的にはほとんど気にならない。ガスがかかって見えにくい。
1.5～2度	シルエットになっている場合にはよく見え、場合によっては景観的に気になり出す。シルエットにならず、さらに環境融和塗色がされている場合には、ほとんど気にならない。光線の加減によっては見えないこともある。
3度	比較的細部までよく見えるようになり、気になる。圧迫感は受けない。
5～6度	やや大きく見え、景観的にも大きな影響がある（構図を乱す）。架線もよく見えるようになる。圧迫感はあまり受けない（上限か）。
10～12度	眼いっぱいになり、圧迫感を受けるようになる。平坦なところでは垂直方向の景観要素としては際立った存在になり、周囲の景観とは調和しえない。
20度	見上げるような仰角にあり、圧迫感も強くなる。

出典：「景観対策ガイドライン（案）」（UHV送電特別委員会環境部会立地分科会、昭和56年）

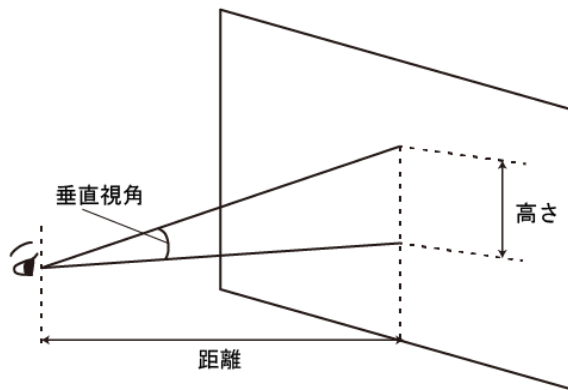
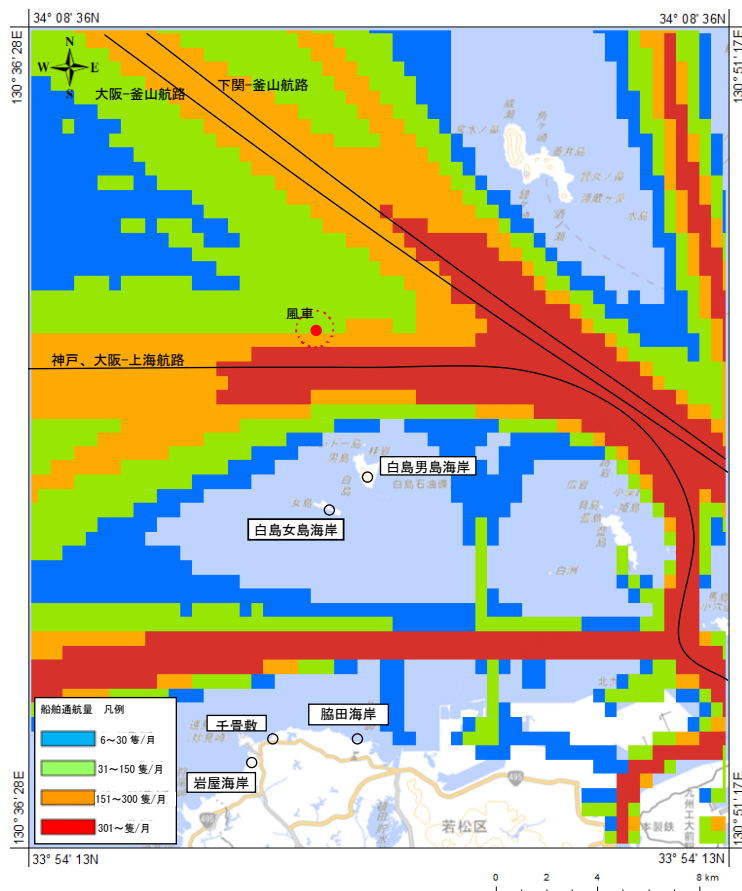


図 3.1-47 見えの大きさ（垂直視野角）について

<フェリー等船舶からの景観について>

風車の最寄りの景観資源としては白島の男島海岸及び女島海岸がある。それらの景観を眺められるのは、船舶で近づいたときに限られる。

事業実施区域周辺の船舶通航量の分布を図 3.1-48 に示す。関門海峡から響灘に向けて通航量が多くなっており（301 隻/月以上）、そのうち客船フェリーの定期航路は 3 航路ある（表 3.1-65 参照）。フェリーの便数は、週一便～毎日一便程度で、白島周辺を通過する時間帯は早朝あるいは夜であることから、白島を眺められる時間帯は限定的であり、景観への影響は少ないものと考えられる。



出典：「船舶通航量（2017年12月）」（環境省、環境アセスメントデータベースを基に加工）

図 3.1-48 景観資源および船舶通航量

表 3.1-65 事業実施区域周辺の定期航路について

航路名 (運航会社)	便数	運航時間	風車周辺 通過時間帯※
神戸、大阪ー上海 (日中国際フェリー)	週 1 便	神戸、大阪発 11 : 30 ~ 上海着 10 : 30 上海発 12 : 00 ~ 神戸、大阪着 9 : 00	1 : 00 ~ 2 : 00 18 : 30 ~ 19 : 30
大阪ー釜山 (パスターライン)	週 3 便	大阪発 15 : 30 ~ 釜山着 10 : 00 (月、水) 大阪発 17 : 00 ~ 釜山着 12 : 30 (金) 釜山発 15 : 00 ~ 大阪着 10 : 00	3 : 15 ~ 4 : 15 20 : 30 ~ 21 : 50
下関ー釜山 (関釜フェリー)	毎日 1 便	下関発 19 : 45 ~ 釜山着 8 : 00 釜山発 21 : 00 ~ 下関着 7 : 45	21 : 15 6 : 10

※各運航会社からのヒアリングによる。船は約 10~20 ノット (18.5~37.0 km/h) で航行。

## b. 自然景観資源

事業実施区域周辺における北九州市若松区の自然景観資源の状況を表 3.1-66 に、位置を図 3.1-49 に示す。日本の自然景観として取り挙げられている中で、北九州市沿岸においては、海岸景観として5箇所が見られている。「千畳敷」は波食台という特異な自然景観資源を有している。

表 3.1-66 北九州市若松区の自然景観資源の状況表

	名称	類型	自然景観資源	羨望性	保護の現状
①	白島・女島海岸	海岸景観	砂浜・磯浜	中景	保護制度の有無・名称：無し
②	白島・女島海岸	海岸景観	砂浜・磯浜	中景	保護制度の有無・名称：無し
③	岩屋海岸	海岸景観	砂浜・磯浜	中景	保護制度の有無・名称：玄海国定公園
④	脇田海岸	海岸景観	砂浜・磯浜	中景	保護制度の有無・名称：玄海国定公園
⑤	千畳敷	海岸景観	波食台	近景	保護制度の有無・名称：玄海国定公園

出典：「日本の自然景観 九州版 I 福岡県・佐賀県・長崎県」（環境省，平成元年）

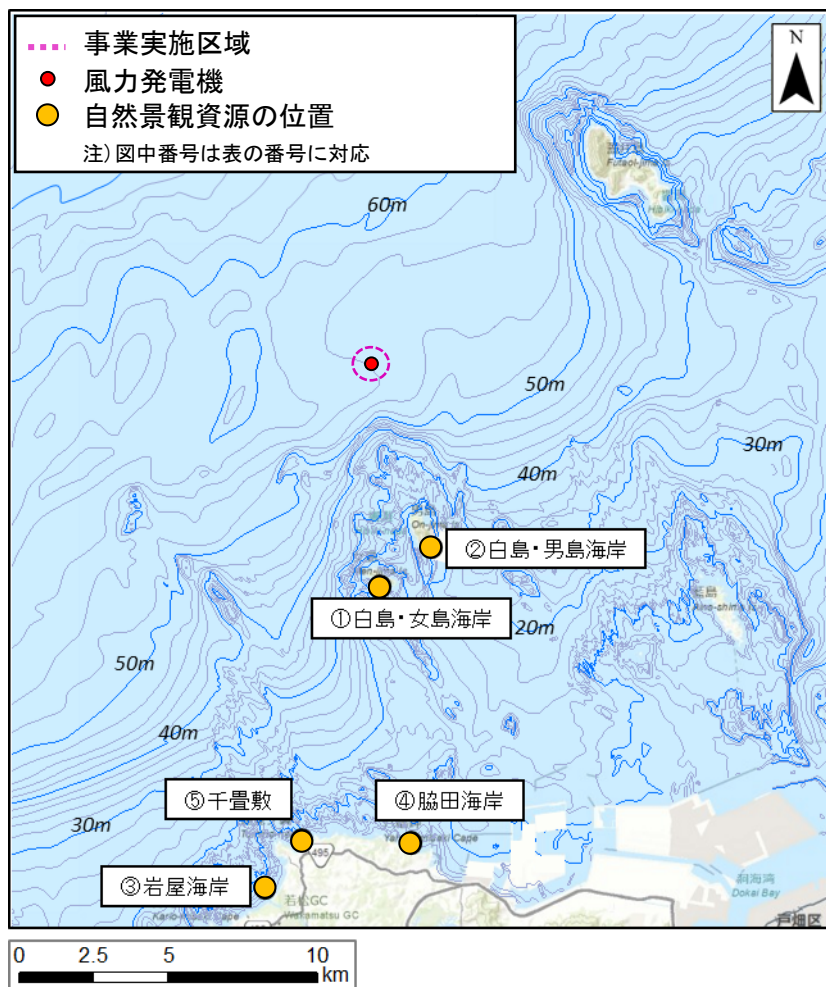


図 3.1-49 自然景観の位置図



## (2) 人と自然との触れ合いの活動の場の状況

事業実施区域周辺における主要な人と自然との触れ合いの活動の場の状況は表 3.1-67 に、位置は図 3.1-50 に示すとおりであり、事業実施区域には存在しない。

表 3.1-67 主要な人と自然との触れ合いの活動の場の状況

名 称	概 要
響灘埋立地	もともと人工の陸地であるが、今ではヨシなどの草も生え、鳥類も集まってくるようになった。冬の池にはカルガモやコガモなどが、春と秋にはシギやチドリ類が生息し、夏にはコアジサシが繁殖している。自然と産業の調和を目指し、響灘埋立地を対象に「響灘・鳥がさえずる緑の回廊構想」が策定された。 産業廃棄物埋め立て跡にできた「響灘ビオトープ」は、日本最大級のビオトープとして、平成24年度に正式オープンした。
響灘緑地	響灘緑地には、複雑な水際線がリアス式海岸を思わせる広大な頓田貯水池を中心に山林、原野、海浜等変化に富んだ自然景観が広がっている。「水緑・そして動物たちとのふれあい」を基本テーマにした市内最大の公園。
グリーンパーク	総面積240haを有する北九州最大の都市公園グリーンパーク。大芝生広場をはじめ、カンガルーやウオンバットなどがいる「カンガルー広場」、チョウがいる「熱帯生態園」、春と秋が見頃の「バラ園」などがある。
緑の回廊植樹帯	平成17年度より、市民や企業が協力して、石峰山から響灘安瀬緑地にかけて「緑の回廊」をつくる事業が始まった。30万本の植樹を目標とし、平成23年度までに7.9万本の植樹が完了している。良好な緑地と生態系の回復を図っていく計画である。
玄界灘遊歩道	高塔山公園を起点に、若松地区を縦走し、石峰山地の尾根をたどって、頓田貯水池を通り、グリーンパーク北ゲートまで続く総延長12kmほどの遊歩道。途中には、仏舎利塔、石峰山、のろし台跡、弥勒山、白山神社などがある。この遊歩道は、既存の山道を利用し、部分的に改良を施しながら、北九州市が昭和45年に整備したもの。コースの一部は、福岡県森林浴100選にも選ばれている。
高塔山公園	標高124mの高塔山の山頂にある公園。展望台から東に若戸大橋や皿倉山、北に響灘を望める。春はサクラ、ツツジの名所、初夏はアジサイの名所として知られている。
仙凡荘	此口夫妻が余生を楽しむために造った庭園は、「自然の美を最大限生かした美観に仙人も凡人も我を忘れて遊ぶ」ことからその名がついた。今は梅の名所としても人気の庭園。
千畳敷	潮の引きにあわせて干出す岩礁地帯。それは長さ200m、幅50mとまさに千畳敷きの名に相応しい。景観を楽しんだり、岩場で海の生物と触れ合ったりと自然を肌で感じられる場所。
脇田海水浴場	透明度の高い海水の水質は最上レベルのAA。駐車場からビーチまでは海岸線に沿ってボードウォークが整備され、安全に浜辺まで行ける。
脇田海釣り桟橋	遊歩道の両側に釣り台を備え付けた施設。沖合い約500mの響灘で、「船釣り感覚のダイナミックな釣り」を楽しむことができる。釣竿の貸出、釣リエサの販売も行っているため、手ぶらでもすぐに海釣りを体験できる。また、釣り桟橋の遊歩道部分は入場無料なので、「美しい海岸を望みながら海上散歩」もできる。
響灘北緑地	風力発電の風車と遊歩道の緑が楽しめる緑地。一周3kmのウォーキング・ジョギングコースがある。

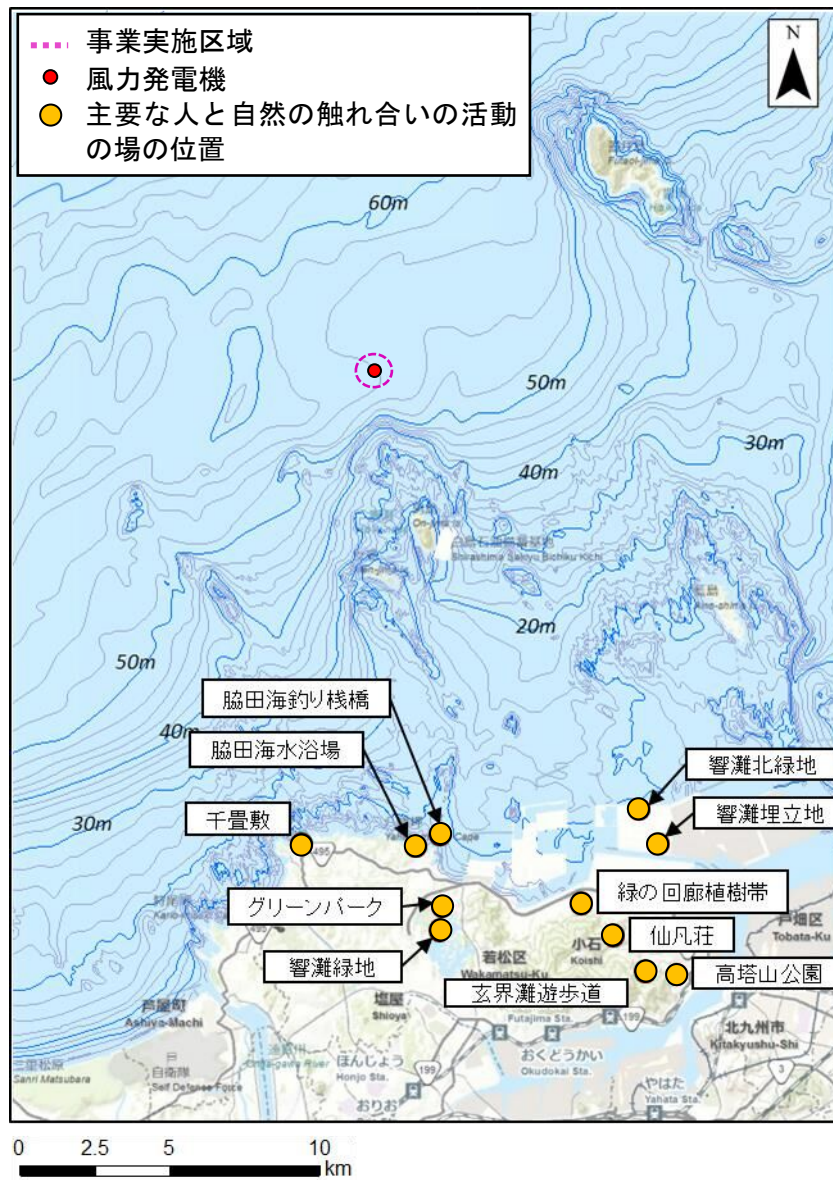


図 3.1-50 主要な人と自然との触れ合いの活動の場の位置図